

スキーにおける女子大学生の意識・実態 に関する調査・研究 第1報

—— スキー実習参加学生の意識・実態調査より ——

宮 内 一 三

はじめに

スキーの歴史は古く、一説によると「おそらく人類と同じように古くからある」とされている。1500年代にはいると軍隊の訓練・戦闘に利用されるようになり、その頃、軍人たちの間でスキーによる賞金レースが行なわれるようになった。それが、スポーツとしてのスキーの始まりであるといわれている。そして現代では、リフトやゴンドラ等の搬送機の発達・ゲレンデの整備・拡張・増大につれ、スキー人口も増え、冬の代表的なスポーツの一つとなり、スキー種目は生涯スポーツとして有効なスポーツの一つであると思われる。

神戸親和女子大学（旧、親和女子大学）においては、昭和42年から生涯スポーツへの橋渡しとしてスキー実習を行なっている。平成4年度からは、スキー実習（単位認定）とスキーセミナー（サービプログラム）に分けて開講されるようになり、内容もスキー技術の習得はもちろんのこと、初心者指導法・総合管理・救急法等「トータル・スキー」の習得を目標として行なわれている。参加希望学生も、ここ数年は大巾に増加し、他大学では類をみない規模のスキー実習となっている。

そこで本研究は、実習参加学生の意識・実態を調査・分析・考察し、そこから生涯スポーツとしてのスキー種目の可能性を明らかにすることを目的とする。

研究の方法

1) 調査対象 神戸親和女子大学スキー実習参加学生

1 回生264名 2 回生 1 名 合計265名である。

2) 調査期間 平成6年2月20日～2月26日

- 3) 調査場所 長野県菅平高原スキー場
- 4) 調査方法 私案の質問紙法により、実習最終日に参加学生全員にアンケート用紙を配布し回収した。(配布265, 回収210, 回収率79.2%)
- 5) 集計方法 NEC, PC-9801 Lotus 1-2-3プログラムを使用

結果と考察

1) スキー経験日数について

この実習に参加するまでのスキー経験日数を調べた結果が図1である。

この結果について考察すると、スキーをするのが「はじめて」答えた学生が15.3%であった。ということは、残りの84.7%の学生は以前に少しでもスキーの経験があるということで、この数字は予想していた値よりも高いものであった。

その理由を推察すると、一つは中学・高校の修学旅行においてスキーを行なう学校が多くなったこと。そして、もう一つには、家族でスキーに行く機会が増えてきているものと思われる。以前に曾和と筆者らで行なった「生涯体育・スポーツへの結びつきについての一考察」(親和女子大学「児童教育学研究」第13号)において、親子で遊ぶときのスポーツ種目について調べたところ、ス

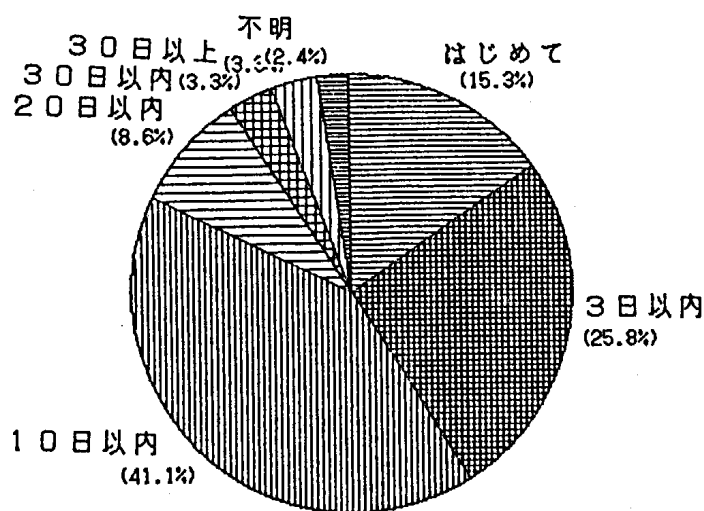


図1 スキー経験日数

キー種目は第6位にあげられ、ソフトボールやバレーボールと同じくらい親しまれているという結果が出ている。これらの結果からスキーは、年齢・性別に関係なく楽しむことのできるスポーツではないかと思われる。

2) スキー用具について

実習中に使用したスキーの板・靴・ウェアについて調べた結果が図2・3・4である。

この結果について考察すると、板と靴については9割以上の学生が「レンタル業者に借りた」と答えている。本来、板や靴は本人に一番適した物を使用するのが、技術の向上・安全面からも望ましい。今回の調査でも、後述の体調について調べた結果で「靴ずれ」をおこした学生が29人いた。その29人についてさらに詳しく調べたところ、28人の学生がレンタルの靴を使用していたことが判明した。このことから、自分に適した用具を使用する必要性がうかがえる。しかし、経験の浅い学生には、自分に適した用具を選ぶということは、困難なことであると思われ、それがレンタルを使用する学生が多い理由の1つであろう。したがって、用具の選び方については、実習中の夜の講義の中で指導が行なわれている。

ウェアについては「レンタル業者に借りた」と答えた学生は2割弱しかお

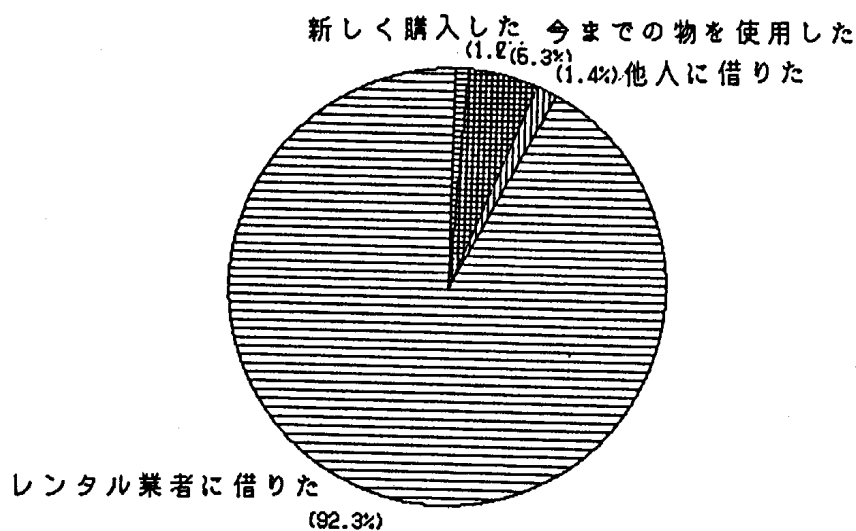


図2 スキー板について

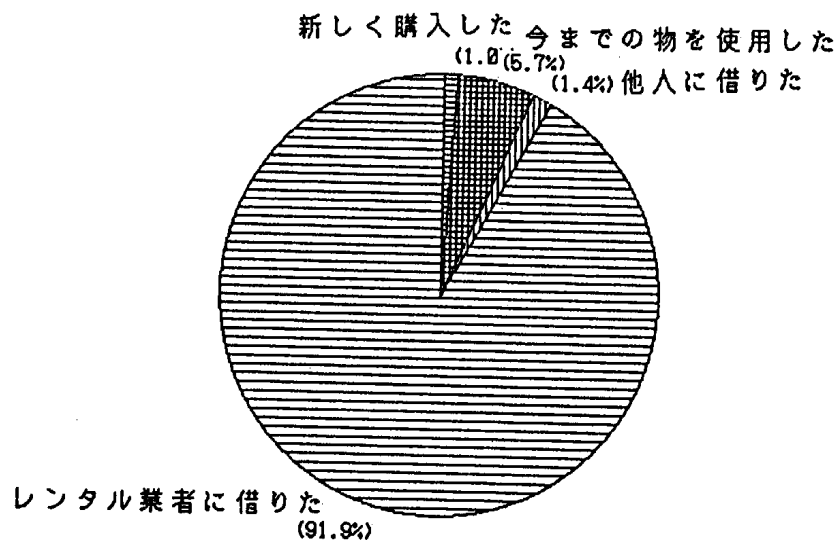


図3 スキーブーツについて

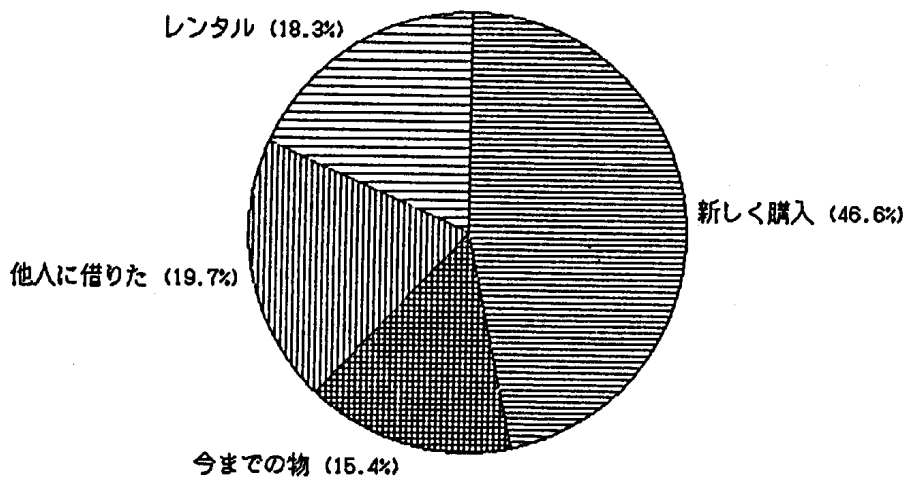


図4 ウェアについて

らず、「新しく購入した」という学生は半数近くをしめ、62%の学生は自分のウェアを持っていることが判明した。これは、学生はスキー用具を購入する時に、板や靴の道具よりも、ウェア等のファッションを重視する傾向にあることがうかがわれる。

スキー用具を自分自身のものを持つということは、他のスポーツと同様に技術習得・意欲の喚起につながると考えられるが、経済面等の問題点を残している。

3) スキー実習の参加理由について

スキー実習の参加理由について調べた結果が図5である。複数回答しているために回答率は207.6%である。

この結果について考察すると、実習の参加理由を「スキー技術の習得」と答えた学生が91.0%おり一番多かった。次いで「単位が取れるから」という回答が52.9%で、その2つ以外の回答は11.4%~16.2%と上位2つの回答とは、かなりの差がでた。

この結果、学生がスキー実習に一番望んでいることは、充実した指導による技術の向上であるといえる。

また「単位が取れるから」と回答した学生が半数以上おり、学生の単位に対する敏感なところが表われている。単位が取れるというきっかけであっても、実習に参加することによって、生涯スポーツへと結びつけば、実習に参加する意義があると思われる。

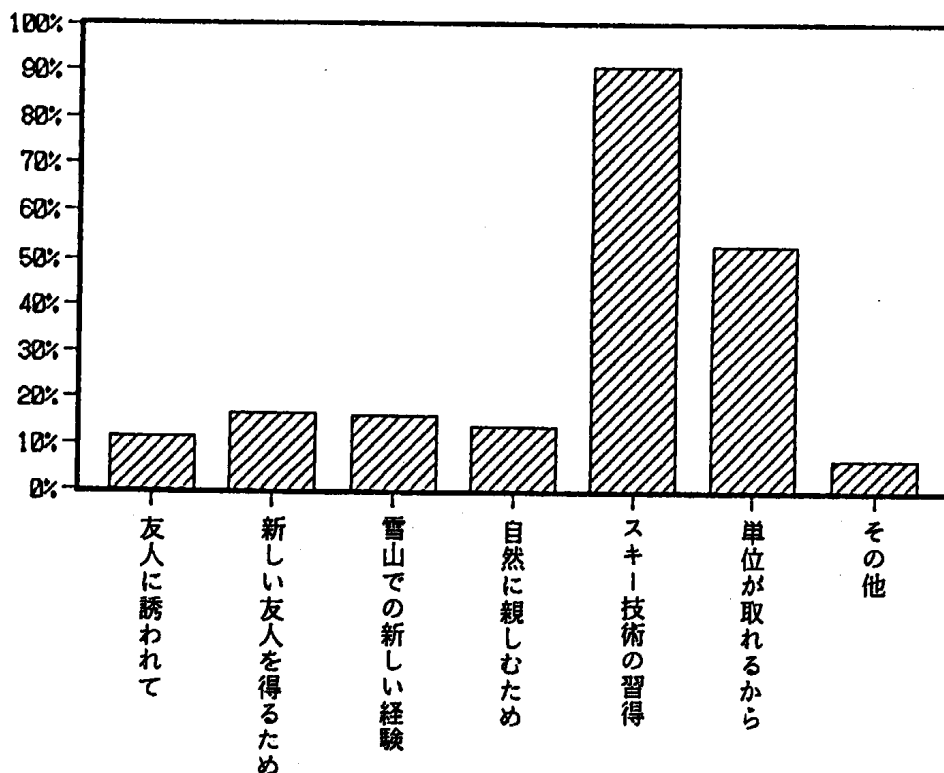


図5 スキー実習に参加しようと思った理由

4) 指導内容について

指導内容について調べた結果が図6である。

その結果をみると「理解して実践できた」と回答した学生が65.4%いた。そして「指導内容が難しい」と答えた学生が1人、「全く何もわからない」と答えた学生が0人であったという結果から、ほとんどの学生が指導内容を十分に理解しているといえる。これは、指導スタッフを現地のスキースクールに依頼するのではなく、本学の専任教員と他大学の体育教員等に依頼し、熱心な教育的指導が行なわれている結果であろう。しかし、「実技が伴わない」と答えている学生も31.7%おり、理解している内容を実践させるための指導技術や練習法の修得が、指導者の今後の課題である。

また、スキーの経験日数と指導内容について相関関係がないかと調べた結果が表1である。その結果をみると、経験日数が30日以上ある学生は、ほとんどが「理解して実践できた」と答えているが、それ以外のところでは顕著な差は現われなかった。

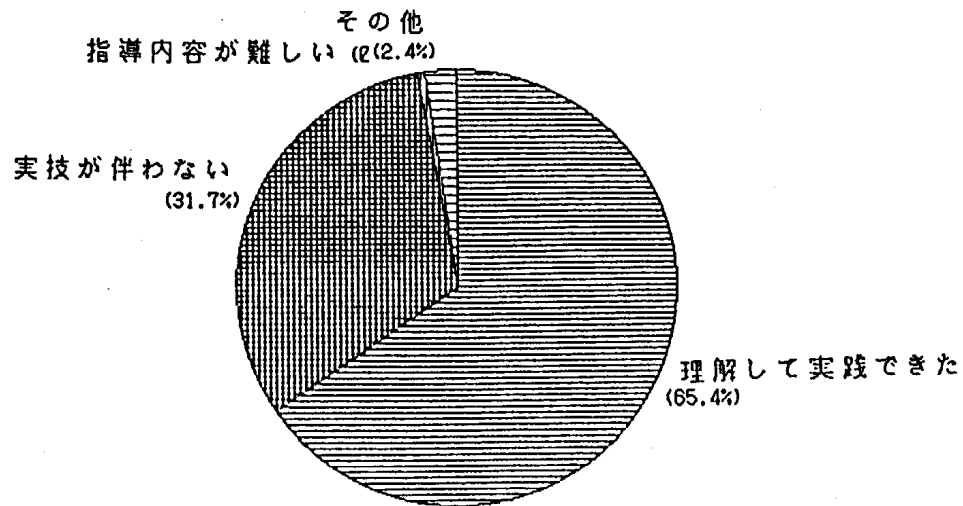


図6 指導内容について

表1 スキー経験日数と指導内容の関係

	理解して実践できた	実技が伴わない	指導内容が難しい	まったく何も解らない	その他
はじめて	24	8			
三日以内	33	19			2
十日以内	54	29	1		2
二十日以内	13	4			1
三十日以内	4	3			
三十日以上	6	1			
不明	3	2			

5) 練習態度について

実習中の自分の練習態度について調べた結果が図7である。

この結果によると、今回の実習において「いつも積極的にできた」と回答している学生が66.8%おり、3人に2人はいつも積極的にできたと答えている。積極的にできたということは練習意欲の高いことの表われであり、このような練習態度を一人でも多くの学生に持ってもらいたいものだ。

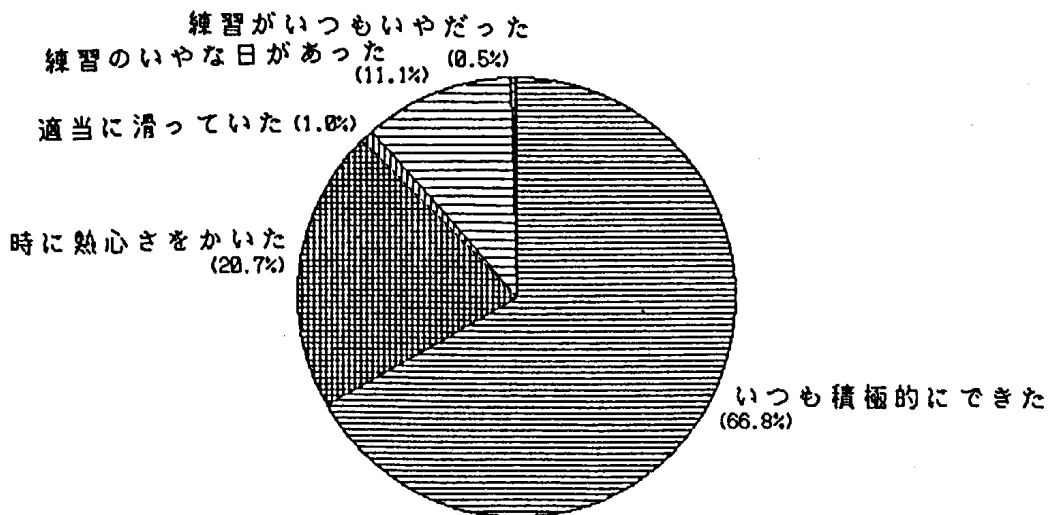


図7 練習態度について

次に、「時に熱心さを欠いた」と答えた学生が20.7%いた。これは、講習時間が午前・午後とも約3時間づつ1日約6時間となる。このような長時間、学生の集中力を維持させるのは難しい問題である。しかし、集中力を欠いた状態での講習は、事故やケガを引き起こす危険があり、これは指導者側の課題であ

ろう。

「練習のいやな日があった」11.1%，「練習がいつもいやだった」0.5%と、1割強の学生が練習のいやな日があったと答えている。その理由については、今後の研究により明らかにする必要があると思われる。ただ、スキーというスポーツは、気象条件の影響を大きく受け、今回の実習でも、初日から吹雪となり、2日目にはリフトも停止したため講習はリフトを使わずに行なわれた。そのような悪コンディションの中での実習であったということもあり、練習のいやな日があったと回答した学生が1割強いた理由であると思われる。

6) トレーニングについて

スキー実習までのトレーニングと、実習後のトレーニングの必要性について調べた結果が図8・9である。

その結果によると、実習前にトレーニングをしてきた学生は、わずかに2.4%で、ほとんどの学生が何もトレーニングを行わずに実習に参加している。ところが「実習を終えてトレーニングの必要性を感じましたか」という質問では、68.1%の学生がトレーニングの必要性感じている。技術の向上・ケガの防止においてトレーニングは必要であり、今後、指導者は、トレーニングの必要性、その方法を事前に学生に知らせることが、必要であろう。

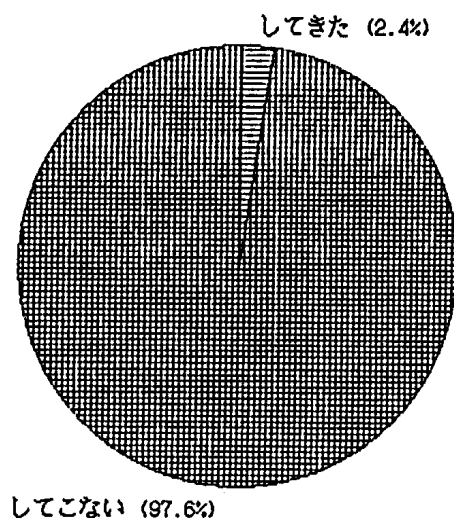


図8 トレーニングについて

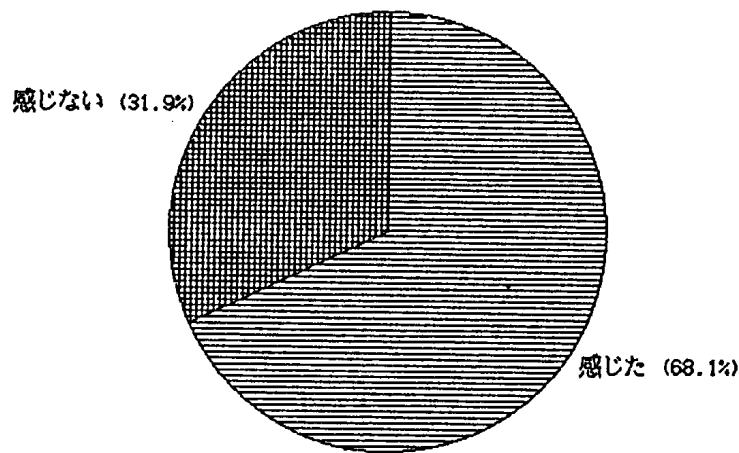


図9 トレーニングの必要性

7) スキーに関する知識について

スキーの知識について調べた結果が図10である。

その結果によると、実習前に何か知識を得てきたと回答した学生は31.6%であった。スキー実習の参加理由をほとんどの学生が「スキー技術の習得」と答えている割には、低い値である。これは、学生の66.8%が「いつも積極的にできた」という練習態度とから考察してみると、実技練習は積極的で意欲的であるが、知識については受け身であることの表われであり、スキーを生涯スポーツとしてとらえるのであれば、もう少し積極的な姿勢が欲しいものである。

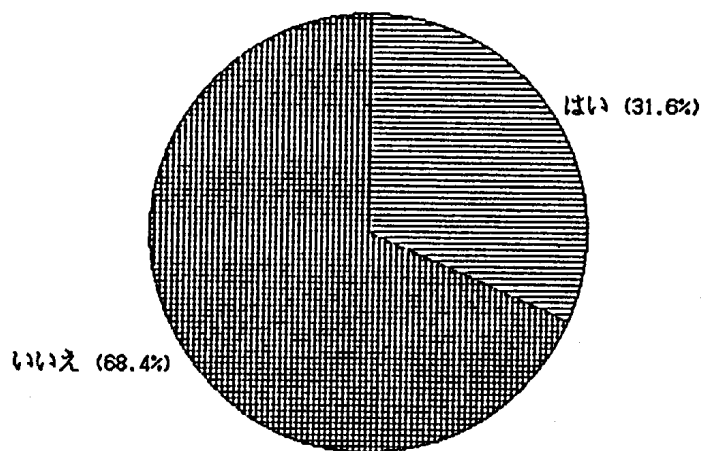


図10 スキーに関する知識を得てきましたか

8) 実習の費用について

実習の費用について調べた結果が図11である。複数回答しているため、回答率は130.0%である。

その結果によると、「親に出してもらった」と答えた学生が85.7%、「自分でアルバイトをして」35.7%、「おこずかいを貯めて」8.6%という結果になった。複数回答について、さらに詳しく調べた結果が表2である。それによると一番多かったのが「親に出してもらった」だけで全体の59.5%で約6割いた。次いで「親から」と「アルバイト」で21.4%「アルバイト」だけが10.0%と、費用面では親に頼っている学生が多いことが判明した。

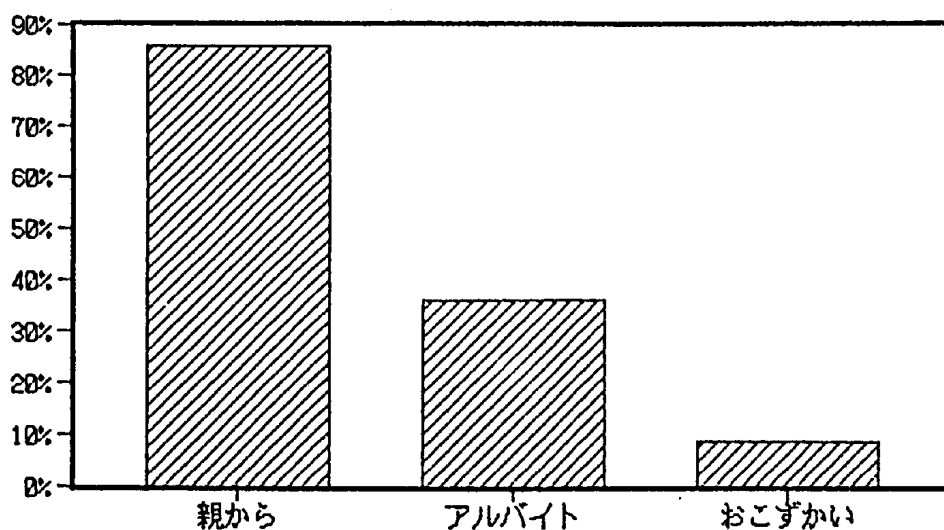


図11 実習の費用について I

表2 実習の費用について II

親から	アルバイト	こずかい	人数	%
○	○	○	6	2.9
○	○		45	21.4
○		○	4	1.9
○			125	59.5
	○	○	3	1.4
	○		21	10.0
		○	5	2.4

9) 実習中の疲労感について

実習中の学生の疲労感を調べた結果が図12である。それによると、実習を通して約半数前後の学生が疲労感を感じており、この結果からも、実習前のトレーニングの必要性がうかがえる。そして、3日目の午後に疲労を感じている学生数がピークに達している。指導者も学生も、このことをしっかりと認識して、ケガ等の事故が起きないようにする注意が必要であると思われる。実習中の休憩の取り方、あるいはプログラムの中に休息日を入れる必要性についても、今後の研究課題にする必要がうかがえる。

また、次に述べる体の調子を調べた項目の中で25.2%の学生が睡眠不足であると回答しており、それも疲労を感じる一因であると思われる。普段と環境が変わり、睡眠不足になりやすいのかも知れないが、次の日の講習のこと等を考えて、実習中の体調の維持をおこたらないように努めるべきであろう。

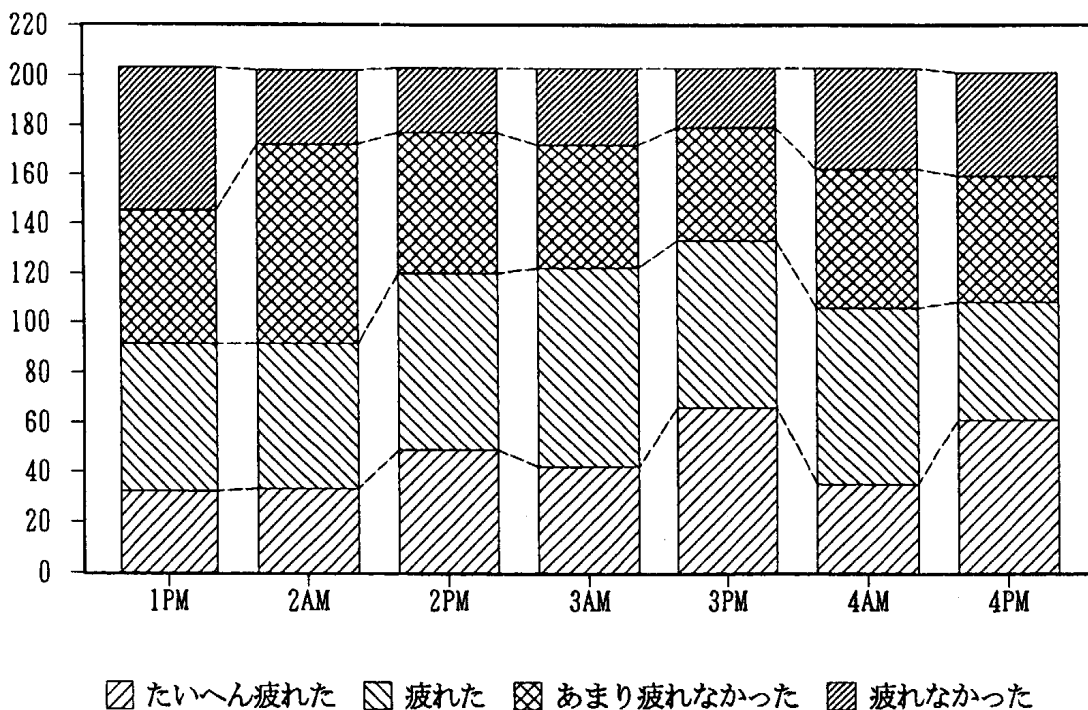


図12 疲労感

10) 体の調子について

実習中の体調について調べた結果が図13である。複数回答しているため回答率は283.3%である。

その結果、多かった順に1位肩こり（55.2%）、2位便秘（41.4%）3位打撲（26.7%）、4位睡眠不足（25.2%）以下、腰痛（18.6%）、風邪（17.6%）、倦怠感（15.7%）、靴づれ（13.8%）、頭痛（13.3%）となった。残りの回答は10%以下であった。

肩こりが半数以上の学生にみられるが、その理由は、寒さと緊張によるものと推察される。便秘についても、女性には普段から多いことと、環境の変化によるものと推察される。その他にも多く体調の異常がみられるが、大きなケガなどにより講習を欠席する学生はいなかった。しかし、回答率が283.3%ということは、1人3つ弱の体調の異常があるということで、ここでも体調の維持の必要性がうかがえる。

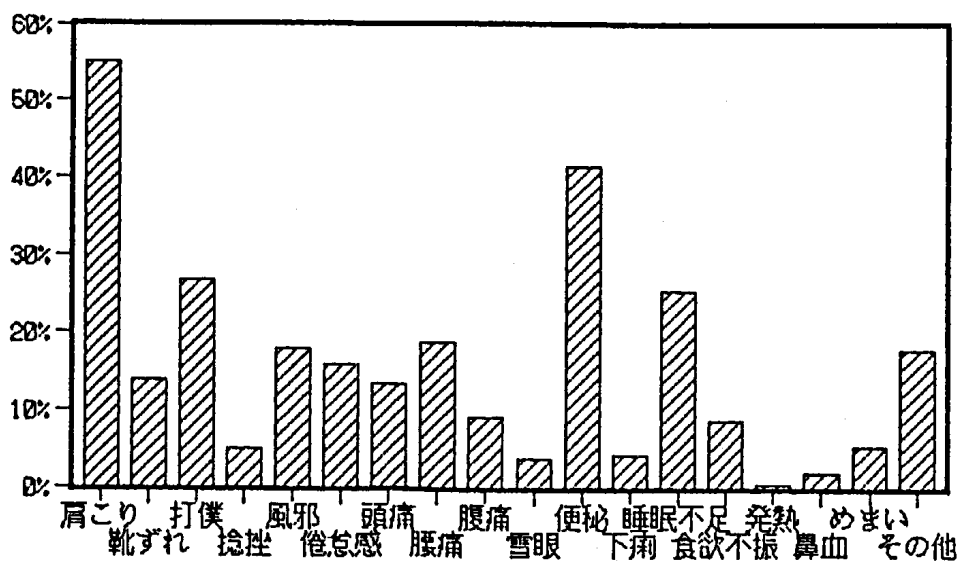


図13 体調について

11) スキーを継続する意志について

将来にわたってスキーを続ける意志が、あるのかないのかについて調べた結果が図14である。また、それぞれの理由について調べた結果が図15・16である。

その結果によると、「絶対に続ける」34.0%「たぶん続ける」52.6%と合わせると9割弱の学生がスキーを続ける意志のあることが判明した。そして、そ

の理由は1位「楽しいから」、2位「仲間で楽しめるから」と、スキーというスポーツを楽しいと回答している学生が多かった。

また、「絶対に続けない」と答えた学生が0人、「たぶん続けない」と答えた学生が4人とスキーを続ける意志のない学生はほとんどいなかった。「たぶん続けない」と答えた4人の学生の経験日数は、初心者3人、10日以内が1人であった。また、その理由は、「寒いのがいやだから」「技術の習得が難しいから」「自分に向いていないから」「重たい荷物を持っての移動がいやだ」「スキー場へ行くのに時間がかかる」の以上の理由で「おもしろくないから」と答えた学生は1人もいなかった。

以上のことから、今回のスキー実習参加学生のほとんどが、スキーというスポーツの楽しさが認識でき、スキーを続ける意志のあることが判明した。

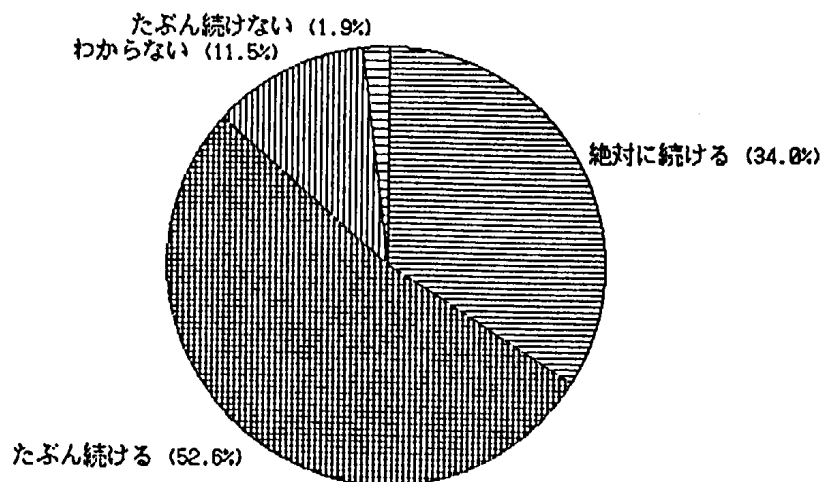


図14 スキーを続けようと思いますか

12) 将来、結婚して家族でスキーを楽しみたいかについて

結婚後にスキーを家族で楽しむ意志を調べた結果が図17である。

その結果注目されるのが、問12で自分がスキーを続ける意志がないと答えた学生が4人いたのに対し、結婚して家族でスキーを楽しむ意志がないと答えた学生が1人に減っていることである。この理由については、今後の研究で明らかにしていくことにする。

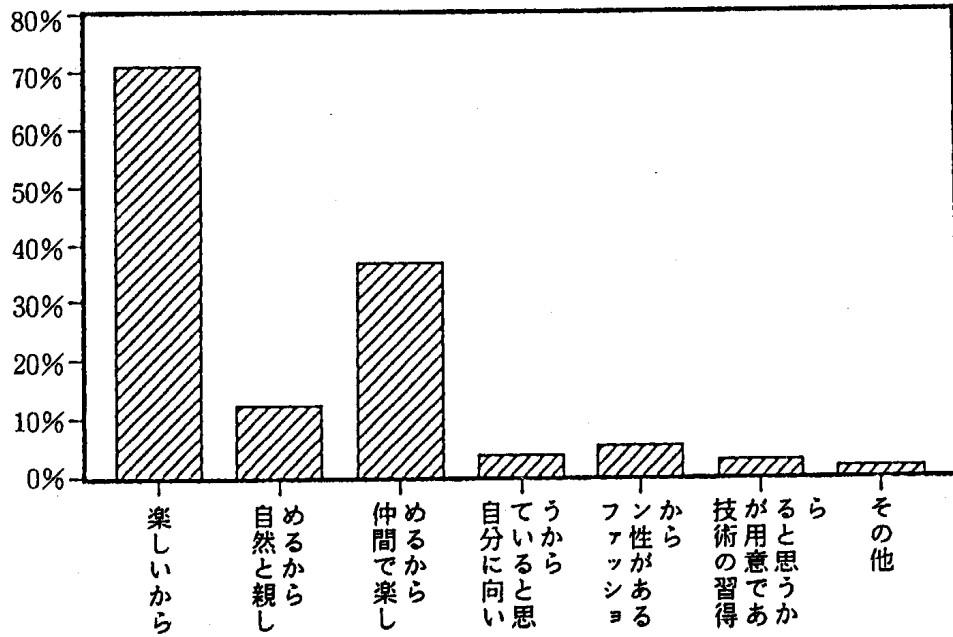


図15 スキーを続けようと思う理由

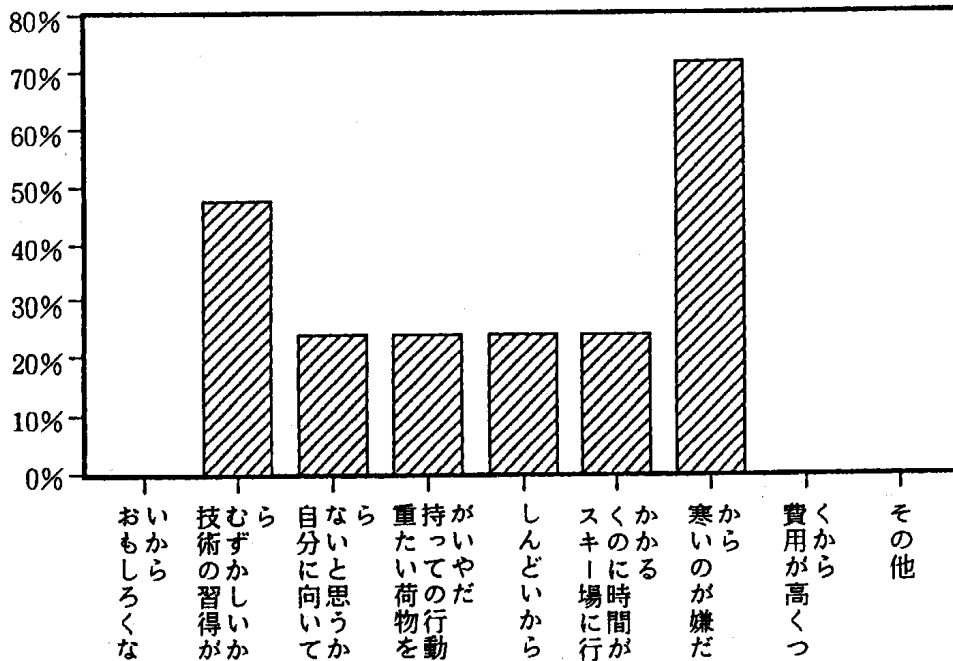


図16 スキーを続けようと思わない理由

また、結婚して家族でスキーを楽しみたいと回答した学生が85.6%もいたということは、多くの学生が結婚後も長くスキーを楽しみたいという意志の表われであり、スキーというスポーツが、生涯スポーツとして成り立つ可能性を十分に含んでいる証ではないだろうか。

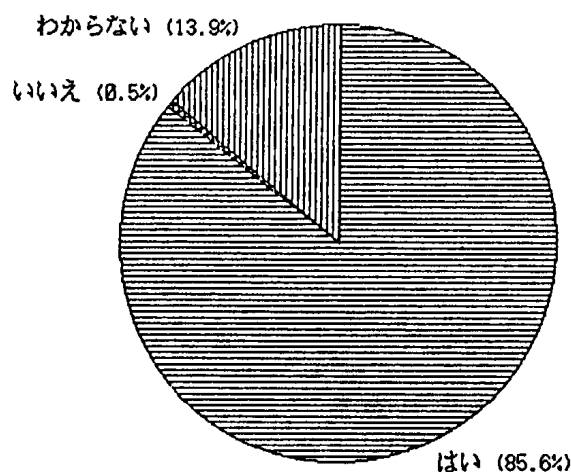


図17 結婚して家族でスキーを楽しみたいですか

まとめ

神戸親和女子大学スキー実習参加学生に関する意識・実態について調査した結果、次のようにまとめられる。

- 1) 用具については、板と靴はレンタルを利用する学生が多く、逆にウェアはレンタルの利用は少なかった。学生は、スキー用具を購入する時は、板や靴より、ウェア等のファッションを重視する傾向がうかがわれる。自分に適した用具を持つ必要性がうかがわれるが、経済的な問題を残している。
- 2) 学生の実習参加理由は、ほとんどの学生が「スキー技術の習得」と答えており、次に「単位が取れるから」と答えた学生が多かった。
- 3) 参加学生のほとんどが、指導内容を理解している。しかし、「実技が伴わない」と答えている学生も31.7%おり、指導内容を実践させる方法の修得が、指導者の今後の課題であると思われる。
- 4) 練習態度は、3人に2人の割合で「いつも積極的にできた」と答えている。しかし、20.7%の学生は「時に熱心さを欠いた」と答えており、集中力を持続させることが、指導者に必要であると思われる。
- 5) 実習までのトレーニングは、ほとんどの学生が行なっていないが、実習後では68.1%の学生が、その必要性を感じている。今後、指導者は、トレーニングの必要性と方法を事前に学生に知らせる必要がある。
- 6) 実習の費用は、ほとんどの学生が、親に頼っていることが判明した。

7) 実習中の疲労については、3日目の午後に疲労を感じている学生数がピークに達している。指導者も学生も、この頃に、ケガ等のないよう特に注意する必要がある。

8) 実習参加学生の9割弱が、スキーを続ける意志があると回答し、しないと答えた学生は、わずか1.9%であった。

また、結婚後、家族でスキーを楽しみたいと回答した学生は85.6%おり、この結果は、実習の目標を十分に果たしているものと思われ、スキーが生涯スポーツとして成り立つ可能性の高いことが判明した。

以上のような結果から、本学スキー実習の一つの目的でもある生涯スポーツの橋渡しは十分に達成されていると思われ、「11) スキーを継続する意志について」「12) 将来、結婚して家族でスキーを楽しみたいかについて」の結果どうりに実習参加学生の1人でも多くがスキーを生涯スポーツとして取り組んでいてもらいたいと思う。

次回の調査では、より詳しく学生の意識・実態を調べ、今後の指導に役立てていきたいと思う。

最後に、この調査にあたり、ご指導・ご協力していただきました井関教授に厚くお礼を申し上げます。

引用文献

1) 生涯体育・スポーツへの結びつきについての一考察

- 曾和 光代 他5名
- 平成6年3月1日発行
- 神戸親和女子大学

「児童教育学研究」第13号

2) スキー発達史 現代スキー全集

- 増田 義彦
- 昭和46年3月1日発行
- 実業之日本社

3) スキー実習参加学生の実態について

- 北岡 守
- 甲南大学保健体育論集

スキー実習アンケート

女子大学生のスキーに対する意識・実態について調査し、生涯体育・スポーツとしてスキーがどのようにとらえられているのかを明らかにすることを目的としています。

以下の質問について、当てはまる所に○を付けてください。

1. あなたの学年は？
 - 1 1回生 2 2回生 3 3回生 4 4回生
2. あなたは、生まれてからスキー実習までに何日スキーをしたことがありますか？
 - 1 はじめて 2 3日以内 3 10日以内 4 20日以内 5 30日以内
 - 6 30日以内 7 不明
3. スキー用具について、うかがいます。
 - *スキーの板はどうしましたか？
 - 1 新しく購入した 2 今までのものを使用した 3 他人に借りた
 - 4 レンタル業者に借りた
 - *スキーの靴はどうしましたか？
 - 1 新しく購入した 2 今までのものを使用した 3 他人に借りた
 - 4 レンタル業者に借りた
 - *スキーウェアはどうしましたか？
 - 1 新しく購入した 2 今までのものを使用した 3 他人に借りた
 - 4 レンタル業者に借りた
4. スキーに参加しようと思った理由は、何ですか？（該当するもの全てに）
 - 1 友人に誘われて 2 新しい友人を得るため 3 雪山での新しい経験
 - 4 自然に親しむため 5 スキー技術の習得 6 単位が取れるから
 - 7 その他（ ）
5. 指導内容については、どうでしたか？
 - 1 理解して実践できた 2 実技が伴わない 3 指導内容がむずかしい
 - 4 全く何もわからない 5 その他（ ）
6. 自分の練習態度は、どうでしたか？
 - 1 いつも積極的にできた 2 時に熱心さをかいた 3 適当に滑っていた
 - 4 練習のいやな日があった 5 練習がいつもいやだった
 - 6 その他（ ）
7. 実習までスキーに対するトレーニングをしてきましたか？（例、ジョギング等）
 - 1 はい 2 いいえ

8. 実習を終わってトレーニングの必要性を感じますか？

- 1 はい 2 いいえ

9. 実習までにスキーに関する知識を何か得てきましたか？

- 1 はい 2 いいえ

10. 実習の費用は、どうしましたか？（該当するもの全てに）

- 1 親に出してもらった 2 自分でアルバイトをして 3 おこずかいを貯めて

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
午 前					
午 後					

11. スキー実習中の疲労感は、どうでしたか？疲労を非常に感じたところに◎，感じたところに○，少し感じたところに△，感じなかったところに×を入れてください。

12. スキー実習中の体の調子は、どうでしたか？（該当するもの全てに）

- 1 肩こり 2 靴ずれ 3 打撲 4 捻挫 5 風邪 6 倦怠感
7 頭痛 8 腰痛 9 腹痛 10 雪眼 11 便秘 12 下痢
13 睡眠不足 14 食欲不振 15 発熱 16 鼻血 17 めまい
18 特になし 19 その他（ ）

13. あなたは、将来にわたってスキーを続けようと思いますか？

- 1 絶対に続ける 2 たぶん続ける 3 わからない
4 たぶん続けない 5 絶対に続けない

* 1もしくは2と答えた人にお尋ねします。その理由は、何ですか？

- 1 楽しいから 2 自然と親しめるから 3 仲間で楽しめるから
4 自分に向いていると思うから 5 ファッション性があるから
6 技術の習得が容易であると思うから 7 その他（ ）

* 4もしくは5と答えた人にお尋ねします。その理由は、何ですか？

- 1 おもしろくないから 2 技術の習得がむずかしいから
3 自分に向いていないと思うから 4 重たい荷物を持っての移動がいやだ
5 しんどいから 6 スキー場へ行くのに時間がかかる
7 寒いのが嫌だから 8 費用が高つくから
9 その他（ ）

14. あなたは、将来、結婚して家族でスキーを楽しみたいと思いますか？

- 1 はい 2 いいえ 3 わからない

ご協力ありがとうございました。